

## 国際ロータリーの管理運営

国際ロータリーはクラブの上部機関ではありません。RI は1910 年に、クラブ内の親睦と奉仕・拡大を巡って大論争が起こったときに、それを收拾するために、奉仕理念の提唱と拡大を受け持つバッファ―として作られた組織です。すなわち当時すでに創立されていた16 のクラブの連合体として設立された組織ですから、本来その権限はクラブと同等のはずです。

その後クラブ数が増えたため双方向の情報伝達の役割が加わり、更に 1922 年に、お互いのクラブは共通のルールで運営すべきだということで標準ロータリークラブ定款が制定され、それに伴って RI に直接監督権が与えられました。この直接監督権はRI 定款、RI 細則、標準ロータリークラブ定款にクラブが違反した場合にのみこれが行使できます。

従ってこの三つの規約に違反しない限り、ほとんどすべての活動はクラブが自由に選択することができます。クラブの組織管理とか奉仕活動の実践は、この三つの上部規約に入っておらず、クラブ細則で規定されていますから、奉仕活動の実践に関しては、RI は要請することはできても、強制することはできません。これを行うのはクラブの義務と責任だと考えて、各クラブが自由闊達に自分のクラブの規模や能力を考えながら奉仕活動の実践をすることが大切です。

なお 2004 年の規定審議会で、RI は地区およびクラブを支援する役割が新たに追加されました。

現在の RI はいろいろな問題を抱えています。

まず、アメリカを中心にした中央集権化が進んでいるということです。ロータリーのような国際的な組織では Grovel Standard に基づいて意思決定をする必要があるのですが、最近では American Standard を押し付けているような感じがします。エバンストン帝国と揶揄する人もいます。情報発信も英語ですればこと足れりといった対応です。私達は同じように人頭分担当金を払っているわけですから、少なくとも公式言語として採用されている言語では、同時に情報提供をすべきだと思います。RI ウェブ・サイトを通じてどんどん英語の情報が発信されるのに、それ以外の国の情報はほとんど発信されないのが現状です。

以前は与えられていた日本人ロータリアンに対する翻訳権も現在は与えられていません。RI 本部で日本語の翻訳を行っている職員は翻訳の専門家ではありませんから、意味不明な邦訳が送られてくることもしばしばです。

理事会の権限が非常に強化されているような感じがします。理事会決定は単なる決定であり、RI 役員である地区ガバナーは別として、クラブや個々のロータリアンを拘束しないにもかかわらず、あたかも強制力があるかのような感を抱かせます。更に規定審議会で決議案として採択されたにもかかわらず、理事会がそれを無視するケースが再々みられます。2004 年規定審議会の例では、地区大会の会長代理派遣中止や地区大会日程の短縮、歴史的に重

要な文書の保存の決定無視などがこれに相当します。2007年規定審議会の決定については現時点ではRI理事会の具体的方針はまだ発表されていませんが、ロータリー財団関係の決議案が大きく変わっただけに、理事会の反応が非常に気になります。

理事会の考え方とRI事務局の考え方にかかなりの違いがあるようで、特にCLPの採用に関してRI理事会や一部の元RI会長は慎重であるのに対して、事務局は既定の事実として積極的に推進しようとしていることに不安を感じます。何れにせよ、RI理事会やRI事務局の考えの通りに、クラブやロータリアンの行動を拘束しようという考え方が横行しているようです。

ロータリー事務局の肥大化と官僚化が進み、日本の官僚制度をそのまま輸出したかというような錯覚すら抱かせます。もっとも、RI会長は1年、理事は2年の任期しか事務局を訪れないのに、事務職員は長期居るのでその情報量に大きな差があることは否めませんが、理事会が事務局をコントロールすることは大切なことだと思います。

RIの資産運用に対する考え方が我々とは違うことも大きな問題です。投資によって大きな損失をだした場合、いったい誰がその穴埋めをするのでしょうか。

ロータリー財団がイリノイ州法の下にあることも大きな問題です。人道的奉仕活動に公平に使うべきである浄財が、アメリカの法律の下に、それも州法の定めによって、その用途が左右されるのはおかしいことであり、当然のことながら、ロータリー財団は中立国に置くべきだと思います。

世界各国には固有の文化や言語や思考や慣習があります。人道的援助活動のニーズも地域によって大きな差があります。従って、アメリカ中心の組織管理ではなく、これらの要素を勘案した、RIBIのような中間管理組織を作って、きめ細かいロータリーの管理をすることも考える必要があるのではないかと思います。

2007年9月27日